

2012年3月期 第2四半期 決算報告

2011年11月4日
経営企画室

1. 第2四半期決算のポイント

[単位:百万円未満切捨]

1.1. 決算のトピックス

[連結](#)

▶ 連結経営成績に関する主な事項

- ⊕ 売上高 … 84億7百万円 (前年同期比 8.8%増)
- ⊕ 営業利益 … 4億59百万円 (前年同期比 132.8%増)

ソフトウェア 開発事業	金融・保険分野	クレスコにおいて、銀行関連等の案件が増加し、稼働率が改善 前年同期を7億71百万円上回り、34億88百万円(前年同期比28.4%増)
	公共・サービス分野	前年同期を2億22百万円上回り、21億65百万円(前年同期比11.4%増)
	流通・その他の分野	前年同期を85百万円下回り、13億59百万円(前年同期比5.9%減)
組込型 ソフトウェア 開発事業	通信システム分野	クレスコにおいて、通信端末関連で開発規模の縮小等が発生 前年同期を1億29百万円下回り、3億85百万円(前年同期比25.2%減)
	カーエレクトロニクス分野	クレスコにおいて、カーオーディオ関連で開発規模の縮小等が発生 前年同期を2億79百万円下回り、6億47百万円(前年同期比30.2%減)
	情報家電等・その他の分野	前年同期を1億68百万円上回り、3億8百万円(前年同期比120.4%増)
商品・製品販売		前年同期を13百万円上回り、51百万円(前年同期比36.5%増)

▶ 連結財政状態に関する主な事項

- ⊕ 総資産 … 119億97百万円 (前期末比0百万円増)
- ⊕ 自己資本比率 … 63.4% (前年度末 65.4%)

1. 第2四半期決算のポイント

1.2. 第2四半期の振り返り

単体

全般傾向

震災の影響で、当初は設備投資に対する閉塞感が拭えない状況であったが、徐々にソフトウェア開発の需要(特に金融関連)が顕在化し、開発要員の稼働率が大幅に改善した。

課題

営業およびプロモーション活動の強化







組込ソリューション事業の拡大

サービスビジネス事業の見直し

1. 第2四半期決算のポイント

1.3. 第2四半期の振り返り

子会社

	クレスコ・ イーソリューション	SAP関連のコンサルティングおよび開発案件は堅調に推移 経験者の採用が最重要課題
	ワイヤレス テクノロジー	Bluetooth関連製品の受注時期のずれ込み等が発生 量産案件の受注、自社製品の差別化が課題
	クレスコ・ コミュニケーションズ	沖縄関連事業、ネット監視事業の案件確保が課題 SIおよびコンサルティング案件の受注に注力
	クレスコ・ アイディー	2011年4月に新規設立 RFID関連製品の受注時期のずれ込み等が発生
	アイオス	新規受注不足による要員稼働率低下 グループ連携による営業活動の強化に注力
	インフィニード	地場顧客の開拓とニアショア拠点化が課題 グループ連携による営業活動の強化に注力

2.1. 損益計算書 [要約]

連結

[単位:百万円未満切捨]

	2011年3月期 第2四半期 ＜実績＞	2012年3月期 第2四半期 ＜実績＞	前年 同期比	2012年3月期 通期 ＜2011/5/9公表＞
売上高	7,726	8,407	108.8%	16,500
売上総利益	1,033 (13.4%)	1,309 (15.6%)	126.7%	2,980 (18.1%)
営業利益	197 (2.6%)	459 (5.5%)	232.8%	980 (5.9%)
経常利益	344 (4.5%)	520 (6.2%)	151.3%	1,130 (6.8%)
当期純利益	191 (2.5%)	228 (2.7%)	119.4%	600 (3.6%)
EPS 円/株	15.95	20.65	—	54.14

【注】（）内の数字は各々の利益率を表します。

2.2. セグメント売上高の比較

連結

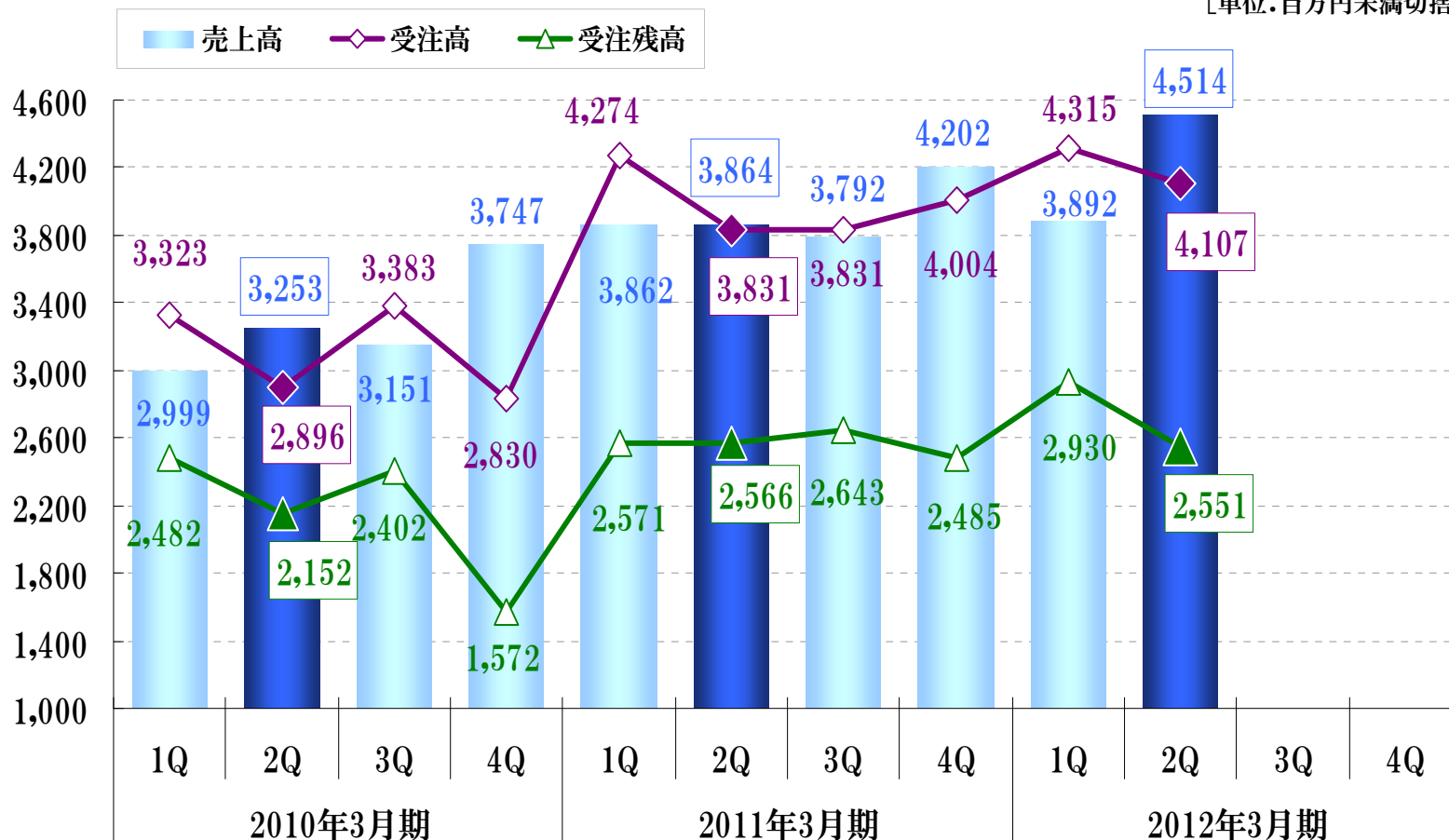
[単位：百万円未満切捨]

大区分	セグメント 小区分	2011年3月期 第2四半期	2012年3月期 第2四半期	増減	増減率
ソフトウェア	金融関連	2,717	3,488	771	28.4%
	公共・サービス	1,943	2,165	222	11.4%
	流通・その他	1,445	1,359	▲ 85	▲ 5.9%
	計	6,105	7,014	908	14.9%
組込型 ソフトウェア	通信システム	515	385	▲ 129	▲ 25.2%
	カーエレクトロニクス	927	647	▲ 279	▲ 30.2%
	その他	140	308	168	120.4%
	計	1,583	1,341	▲ 241	▲ 15.2%
商品・製品販売		37	51	13	36.5%
全計		7,726	8,407	680	8.8%

2.3. 売上高・受注高・受注残高の推移

連結

[単位:百万円未満切捨]



2.4. 損益計算書 [要約]

単体

[単位:百万円未満切捨]

	2011年3月期 第2四半期 ＜実績＞	2012年3月期 第2四半期 ＜実績＞	前年 同期比	2012年3月期 通期 ＜2011/5/9公表＞
売上高	5,551	5,990	107.9%	11,600
売上総利益	670 (12.1%)	901 (15.0%)	134.5%	1,860 (16.0%)
営業利益	175 (3.2%)	401 (6.7%)	229.1%	680 (5.9%)
経常利益	283 (5.1%)	506 (8.5%)	178.6%	850 (7.3%)
当期純利益	168 (3.0%)	264 (4.4%)	157.5%	450 (3.9%)

【注】 ()内の数字は各々の利益率を表します。

2. 財務経営成績 等

2.5. 損益計算書 [要約]①

子会社

[単位:百万円未満切捨]

	 クレスコ・イー・ソリューション [資本金: 200]		 ワイヤレステクノロジー [資本金: 50]		 クレスコ・コミュニケーションズ [資本金: 50]	
	2011年3月期 第2四半期	2012年3月期 第2四半期	2011年3月期 第2四半期	2012年3月期 第2四半期	2011年3月期 第2四半期	2012年3月期 第2四半期
売上高	671	664	36	79	84	69
売上総利益	92	145	7	14	19	16
営業利益	14	54	▲ 2	3	▲ 6	▲ 8
経常利益	18	55	▲ 2	3	▲ 6	▲ 8
当期純利益	9	31	▲ 3	2	▲ 4	▲ 4
持分比率	100.0%	100.0%	87.5%	87.5%	86.0%	86.0%

2.5. 損益計算書 [要約]②

子会社

[単位:百万円未満切捨]

	 クレスコ・アイディー [資本金: 100]		 アイオス [資本金: 313]		 インフィニード [資本金: 17]	
	2011年3月期 第2四半期	2012年3月期 第2四半期	2011年3月期 第2四半期	2012年3月期 第2四半期	2011年3月期 第2四半期	2012年3月期 第2四半期
売上高	-	4	1,337	1,533	66	79
売上総利益	-	▲0	237	213	1	10
営業利益	-	▲24	52	40	▲4	▲3
経常利益	-	▲24	65	45	0	▲1
当期純利益	-	▲24	53	17	0	▲1
持分比率	-	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

【注】「クレスコ・アイディー」は2011年4月5日に設立しております。

3.1. 基本方針

顧客創造
顧客創造

3.2. 重点施策

- ▶ **営業部門の拡充**
営業専任者の増員、営業統括部の設置
- ▶ **グループ本部の設置**
グループ戦略、営業活動・広報活動支援、コンプライアンス強化
- ▶ **擬似カンパニー制の強化**
営業利益ベースでの業績評価、部門裁量の拡大
- ▶ **政策予算の確保**
人材採用、開発支援、グループ活動強化等
- ▶ **モバイルへの取組み**
スマートデバイス等、新メディアへの積極対応

3.3. 今後の事業展開、株主還元方針など①

1 経営環境

当第2四半期連結累計期間(平成23年4月1日～平成23年9月30日)の経営環境は、当初、震災の影響で、設備投資や消費に対する閉塞感が拭えないまま推移いたしましたが、後半は復興需要が顕在化し、円高や原材料高、金融市場の低迷といった懸念事項はあるものの、改善基調でございました。

設備投資計画においても、当初の想定に比べて震災の影響は少なく、国内のIT需要は、慎重ながらも積極的な姿勢に変化してきたと実感しております。

2 モバイルソリューションへの参入

震災後、ITに対するマーケットニーズは、多くのコストと時間を要する大規模システム開発からインターネットやスマートフォン、タブレットPCなどを活用したシステム開発へと潮流が大きく変化しております。

このようなマーケットニーズの変化を成長機会と捉え、クレスコは、2011年10月1日にエンベデッドソリューション事業部に





「スマートフォンビジネスセンター」を新設いたしました。

通信デバイス開発やアプリケーション開発の経験と実績を活かし、モバイルソリューションに本格参入し、事業拡大を図ってまいります。

また、近距離無線通信(非接触ICカードやBluetooth、RFIDなど)を活用したソリューション開発も積極的に推進してまいります。

3.3. 今後の事業展開、株主還元方針など②

3 新しいサービス

昨今のIT投資は、多大なコストと時間を要する「新規開発」は減少し、クラウドサービスの活用（「所有」から「利用」）がトレンドとなっております。クレスコでは、クラウド上のファイルサーバで、情報の保管・交換・共有を「安価かつ簡易な操作」で実現した「インテリジェントフォルダ  Intelligent Folder」のサービス提供を開始いたしました。「セキュアダイブ  SecureDive」 「Universal ID Master 」 「データ連携ソリューション  DataSpider」と併せ、サービスビジネス事業の拡大を目指してまいります。

4 株主還元方針

株主還元方針といたしましては、何よりも業績に裏付けられた適正な利益配当に重点をおいており、特段の株主優待は行っておりません。なお、配当に関しましては、当社の経常利益を基に特別損益を零（ゼロ）とした場合に算出される当期純利益の40%相当額を継続的に実現することを目指してまいります。

- ❖ 掲載内容については細心の注意を払っておりますが、掲載された情報の誤り等によって生じた損害等に関し、当社は一切責任を負うものではありません。
- ❖ また、本資料は投資判断のご参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われるようお願い申し上げます。
- ❖ なお、本資料における将来予測に関する情報および業績見通し等の予想数値は、現時点で入手可能かつ合理的な情報による判断および仮定に基づき記述しております。
- ❖ 今後、リスクや不確定要素の変動および経済情勢等の変化により、予告なしで情報を変更したり、実際の業績や結果と大きく乖離するなど、本資料の内容とが異なる可能性もございます。予めご了承ください。